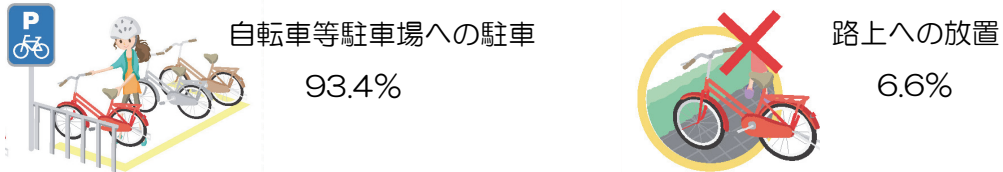


「駅前放置自転車の現況と対策－平成 25 年度調査－」について
 － 調査結果の概要 －

1 駅周辺における自転車等の放置状況 【図-1】参照

都内の駅周辺（駅から概ね半径 500m以内の区域）における自転車の乗入台数（放置台数と自転車等駐車場の駐車台数の合計）は 649,824 台、原付及び自二を含めた乗入台数は 673,446 台であった。また、自転車の乗入台数のうち自転車等駐車場への駐車台数（実収容台数）は、606,840 台（93.4%）で、残りの 42,984 台（6.6%） が路上などに放置されていた。



(1) 自転車、原動機付自転車及び自動二輪車の放置台数

自転車、原付及び自二の放置台数は、**46,752 台（前年度比 6,044 台減少）**であった。

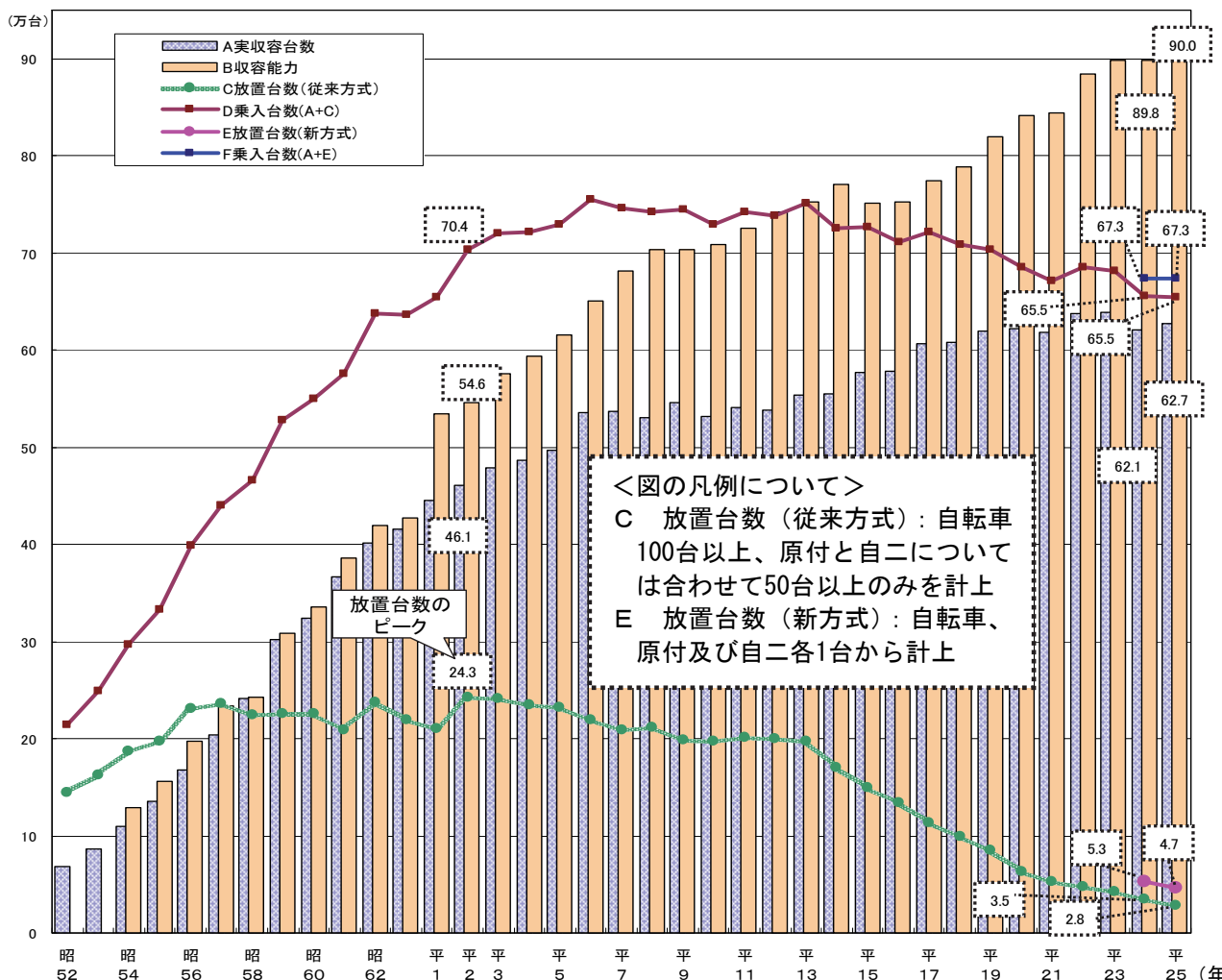
（参考）従来の調査方法では、**28,256 台（前年度比 6,444 台減少）**であった。

きめ細かく放置の実態を把握し、放置自転車を解消するための対策に活かすため、平成 24 年度からこれまでの全国一律の調査方法（自転車 100 台以上、原付・自二はあわせて 50 台以上の駅を調査対象とする。）に加え、自転車、原付及び自二各 1 台以上の駅を調査対象としている。

(2) 自転車の放置率（乗入台数に占める放置台数の割合）・・・区部 9.3%、市部 2.3%、町村部 0.2%

自転車の放置率が高い区市町村は、①千代田区(67.2%)、②文京区(42.2%)、③新宿区(40.3%)の順であった。

【図-1】 放置台数・実収容台数・収容能力・乗入台数推移



※ 昭和52年から隔年以内閣府（旧総理府）が全国調査を実施。全国調査が実施されない年は都が単独で調査を実施。

2 放置台数が多い駅と乗入台数が多い駅

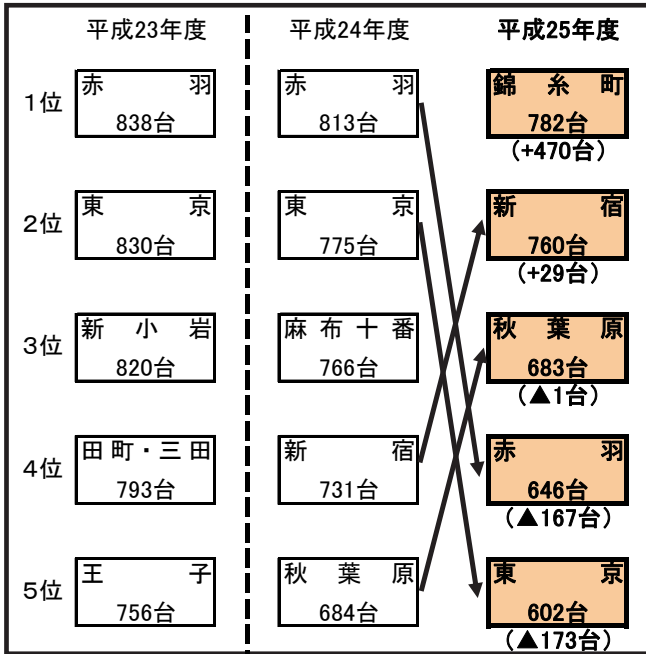
(1) 放置台数が多い駅

図-2 参照

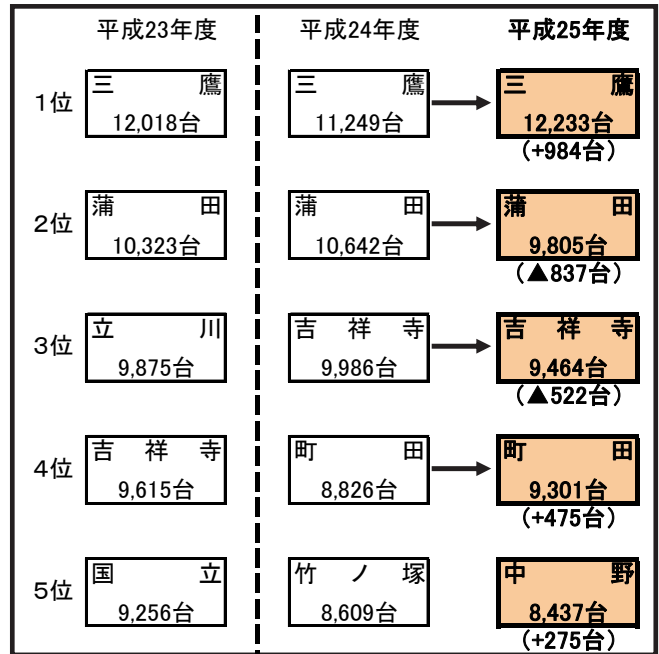
(2) 乗入台数が多い駅

図-3 参照

【図-2】 放置台数が多い駅の推移



【図-3】 乗入台数が多い駅の推移



※平成24年度から調査方法を変更しているため、台数を単純に比較することはできない。

3 放置自転車等の減少へ向けた主な対策

都、区市町村、事業者等は、放置自転車対策として、自転車等駐車場の設置、放置自転車等の整理・撤去、放置防止の啓発活動に取り組んでいる。

なお、平成24年度における区市町村の対策費は、**150.1億円（前年度比約5.3億円減少）**であった。

(1) 東京都自転車安全利用推進計画の策定

東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例に基づき、自転車事故や放置自転車がない社会を目指して東京都自転車安全利用推進計画を策定した。計画では、駅前放置自転車台数の数値目標を3万台以下（平成27年中）として、行政、自転車利用者、事業者等が果たすべき具体的な取組を示した。

(2) 自転車等駐車場の設置等

駅周辺における適地の確保が困難な中、自転車等駐車場の設置及び自転車等駐車場への誘導等が進められた。平成24年度における区市町村の投資的経費（自転車等駐車場の建設、増・改築等に要する経費）は、**25.0億円（前年度比約4,400万円増加）**であった。

(3) 放置自転車等の整理・撤去等

放置自転車等の整理・撤去をはじめ、保管、持ち主への返還、処分等が行われた。

平成24年度の撤去台数は**596,121台（前年度比56,746台減少）**であり、区市町村の消費的経費（放置自転車の撤去等に要する経費）は、**125.1億円（前年度比約5.7億円減少）**であった。

(4) 放置防止に向けた啓発

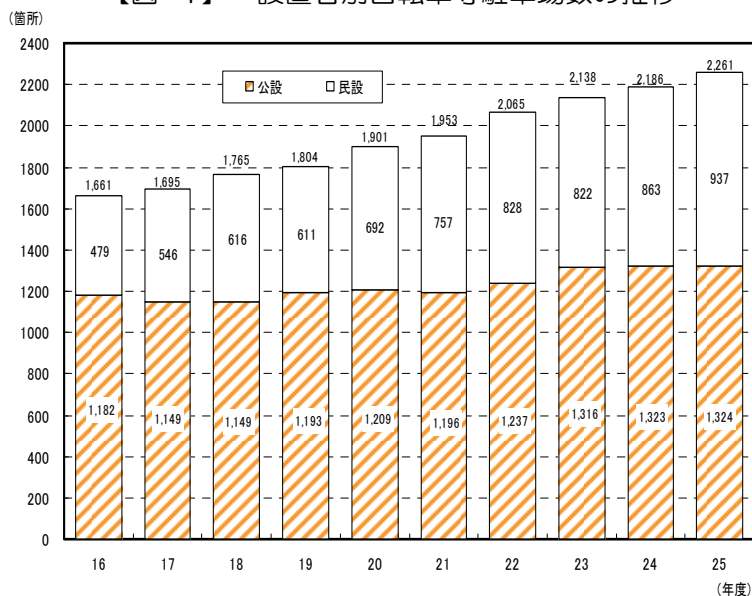
毎年10月、「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」を実施し、一斉に広報活動、放置自転車等の撤去活動等を実施している。

4 自転車等駐車場の設置状況 【図-4、5】参照

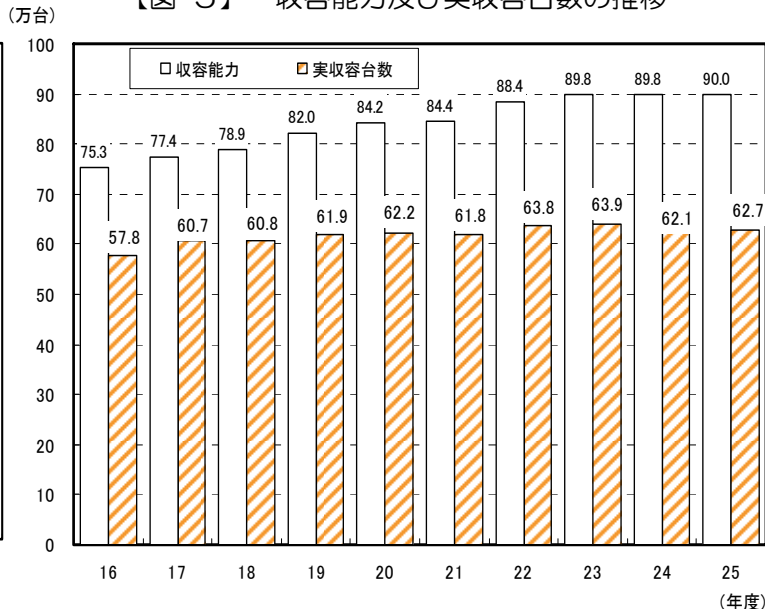
平成 25 年 8 月末日現在、駅周辺の自転車等駐車場は **2,261 箇所**（前年度比 **75 箇所増加**）、収容能力は **900,222 台**（前年度比 **2,209 台増加**）である。そのうち公設は **1,324 箇所**（前年度比 **1 箇所増加**）、民設は **937 箇所**（前年度比 **74 箇所増加**）であり、近年は鉄道事業者をはじめとした民間事業者による自転車等駐車場設置が増加している。

※ 不特定多数の者が利用可能なもののみ（来客用駐車場等は、特定の者のみ利用可能であり、対象外）

【図-4】 設置者別自転車等駐車場数の推移



【図-5】 収容能力及び実収容台数の推移



5 平成 24 年度における放置自転車等の撤去、処分等の状況 【図-6、7】参照

(1) 平成 24 年度に区市町村が撤去した放置自転車等：**596,121 台**（前年度比 **56,746 台減少**）

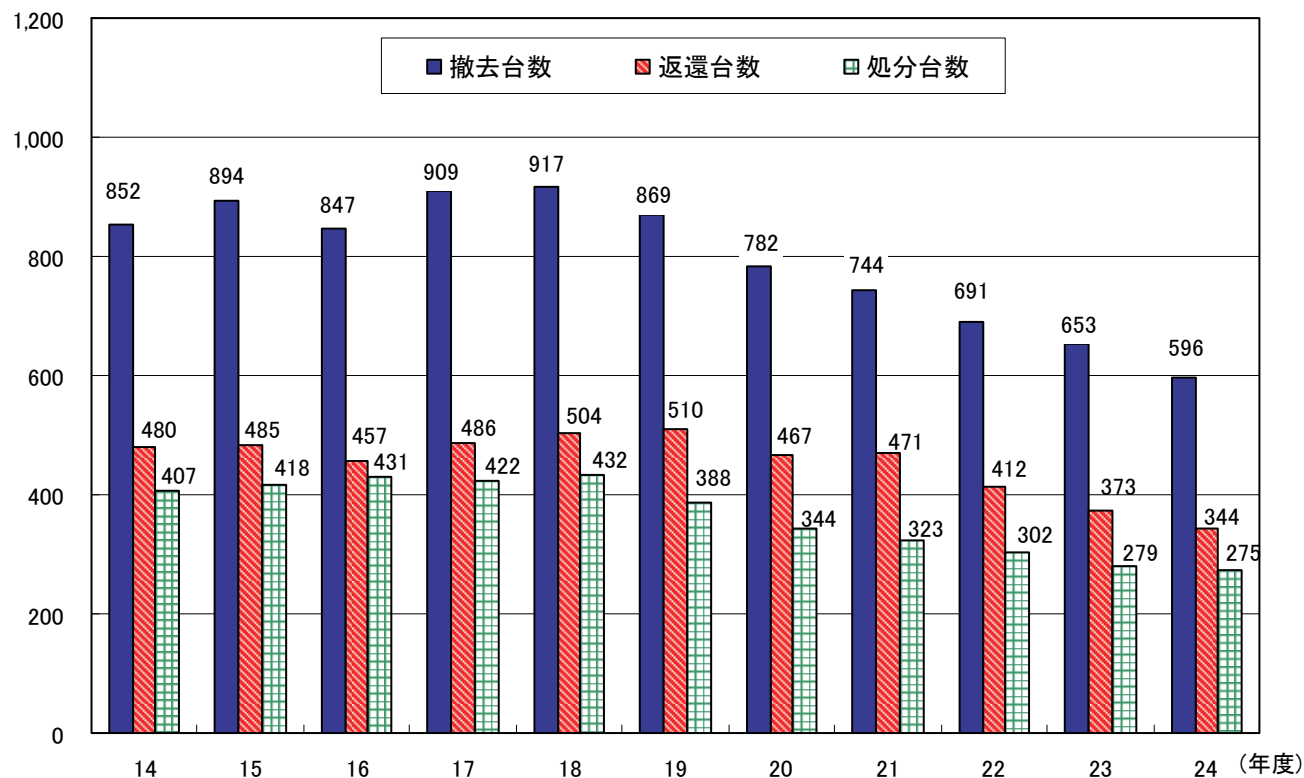
(2) 平成 24 年度に持主に返還された台数：**344,056 台**※

(3) 平成 24 年度に区市町村が処分した台数：**274,742 台**※

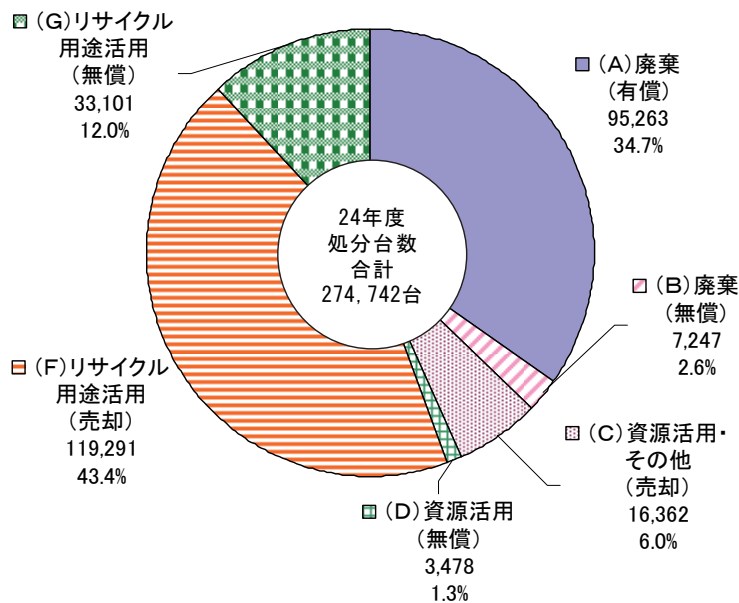
※ 平成 23 年度中に撤去されたものを含む。

(千台)

【図-6】 放置自転車等の撤去・返還・処分台数の推移



【図-7】 撤去自転車及び原動機付自転車の処分内訳



※ 処分の内訳は、

- ・ 廃棄処分 (A+B) : 102,510 台 (37.3%)
- ・ 鉄くずとして資源活用 (C+D) : 19,840 台 (7.2%)
- ・ リサイクル用途 (E+F) : 152,392 台 (55.5%)

6 放置自転車対策事例

区市町村・地域で実施している放置自転車対策のうち、放置自転車を大きく減少させた取組、特色ある取組など合計4つの事例をとりあげた。

実施主体・タイトル	取組内容
江東区 児童絵画を用いた自転車放置禁止路面シート	児童が描いた絵画を自転車放置禁止路面シートとして活用し、自転車利用者の視覚・心理に強く訴えかけた。 
豊島区 官民一体となった放置自転車対策の推進	鉄道事業者以外の民間事業者（東京電力）の協力のもと、変電施設建設にあわせ、新規に自転車駐車場を整備した。 
赤羽スズラン通り商店街 商店街が来街者用自転車駐車場を整備	区や警視庁と連携し、商店街の道路を一方通行化するなどの取組とあわせて、従来車道であった場所に約300台分の自転車駐車場を新設した。 
東村山市 東村山市公式キャラクター「ひがっしー」が出演する動画制作	放置自転車の問題について、子供から大人まで幅広く関心を持ってもらうため、市の公式キャラクター「ひがっしー」を活用した動画を制作した。 